

発達障害に対する支援マニュアル  
-保健師や社会心理支援・相談員の方へ-

- 相談の意義
- 相談を受けるにあたって（基本的な心構え、準備）
- いざ相談を受けるときに
- 困りごとを話してもらったら
- スクリーニングツール（M-CHAT）

## ○相談の意義

- ・発達障害は症状やニーズに個人差が大きいいため、まず、その人のプロフィール全体や生活状況全般を把握し、その人が必要としている支援ニーズを把握する
- ・相談を受ける側が、相談者に敬意を払って話を聞いていねいに聞き、理解しようと努めるだけでも（たとえ解決の力になれなくても）、相談者の一定の満足につながる。本人がわかっただけでも前向きな気持ちになれば、状況に変化が生じる
- ・複雑に絡み合った相談者の抱える困難や心配事を、ひとつひとつ整理していく作業を通して、相談を受ける側との信頼関係が育っていく。一方的にひとりよがりの思いこみによる助言をこれまでに幾度も経験していることを忘れないように。

## ○相談を受けるにあたって（基本的な心構え、準備）

- ・「あなたのことを分かりたい」と関心を寄せていることを伝える（相談者が話すモチベーションを高めることにつながる。これまでに話をしても「何度も同じことばかり繰り返しているさ」と耳を傾けてもらえなかった経験を持っているかもしれない）
- ・ここまで1人きりで苦勞し、傷つきながらもここまでがんばってきたこと、そして今日、相談にきてくれたことを思いやり、ねぎらう（これまでの人生で「周りとは何かが違う」と感じてきたかもしれない。そして、努力しても皆と同じようにできない「ダメな自分」だと思ひ込み、自己否定・自信喪失してきたかもしれない）
- ・親は、発達障害と気づかず接してきたことで、罪悪感を抱いていることが多い。また本人から責められているかもしれない。親に対しても、養育で大変だったこと、辛かったことに耳を傾け、ねぎらう
- ・発達障害はこうだ、と思ひ込みで決めつけない。その人が実際には何に困っているのか、本人もわかっていないこともある。思ひを言葉にしてもらい、相談者と支援者が一緒に整理していくこと（発達障害の症状そのものに困っているとは限らない。睡眠、アルコール、ゲームや対人関係での依存、自信のなさなど、仕事とプライベートを含め、あらゆる方面から、どのように困っているのかを包括的に把握する）
- ・落ち着いて話せるよう、時間を十分に確保しておく（緊急時を除く）

・「WHO 災害時の心理的応急処置フィールド・ガイド」で紹介されている基本的態度の中で、特に発達障害の相談を受けるにあたって重要だと思われることは下線部の通り

すべきこと	してはならないこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 信頼されるように、誠実に接しましょう</li> <li>▶ 自分の意思決定を行う権利を尊重しましょう</li> <li>▶ あなた自身の偏見や先入観を自覚して、それにとらわれないようにしましょう</li> <li>▶ たとえ今は支援を断ったとしても、あとになってから支援を受けることもできることをはっきりと伝えましょう</li> <li>▶ 時と場合に応じて、プライバシーを尊重し、聞いた話については秘密を守りましょう</li> <li>▶ 相手の文化、年齢、性別を考えて、それにふさわしい行いをしましょう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 支援という立場を悪用してはなりません</li> <li>▶ 支援の見返りに金銭や特別扱いを求めてはなりません</li> <li>▶ <u>できない約束をしたり、誤った情報を伝えてはなりません</u></li> <li>▶ 自分にできることを大きげさに言っはなりません</li> <li>▶ <u>支援を押しつけたり、相手の心に踏み込んだり、でしゃばることをしてはなりません</u></li> <li>▶ 無理に話をさせてはなりません</li> <li>▶ <u>聞いたことを別の人に話してはなりません</u></li> <li>▶ <u>相手の行動や感情から、「こういう人だ」と決めつけてはなりません</u></li> </ul>

引用：World Health Organization, War Trauma Foundation and World Vision International (2011).

Psychological first aid: Guide for field workers. WHO: Geneva. (訳：(独) 国立精神・神経医療研究センター、ケア・宮城、公益財団法人プラン・ジャパン (2012) .心理的応急処置 (サイコロジカル・ファーストエイド：PFA) フィールド・ガイド.

○いざ相談を受けるときに

・発達障害の方にありがちなこと

- 焦って混乱すると、頭の中がまっしろになり、理解できないことがある（落ち着いていれば理解できることであっても）
- まわりくどく、要領が悪い話し方のことがある
- 表現の一部、言葉の選択にこだわることもある
- 独特な意味で言葉を使うことがあり、相談者と相談を受ける側でまったく違うものをイメージしている場合がある
- 自身でも、本当に困っていることを理解していない・言えていないことがある

・相談を受ける側がすべきこと・できること

- 「もうちょっと詳しく教えてください」などと促し、できるだけ相談者自身の言葉で話してもらう（説得をしない）
- こちらが話す時にはゆっくりと、落ち着いた口調で
- 短い言葉、平易な言葉で、具体的な表現で
- 相談者がこちらの言ったことをわからない場合、同じことを繰り返すだけでなく、言い方を変えてみる
- 話すだけよりも、書く方（箇条書き、図示など）が伝わりやすい
- 本人に理解しやすい表現を探り、見つけていく（NGワードもある）
- 本人が理解しているか、確認しながら話を進める
- あらかじめ「今日は〇分までここで話ししましょう」などと枠組みと見通しをあらかじめ伝えておくとよい。終了時刻になり「突然、拒絶された」と感じさせないように配慮を

・やりがちな失敗

- 「やっぱり発達障害だ」と型にはめること、診断の証拠探し（知識のある者ほど注意）
- 「困った人＝発達障害」という決めつけ
- 一方的な説明・説得

・「WHO 災害時の心理的応急処置フィールド・ガイド」で紹介されている話の聞き方の中で、特に発達障害の相談を受けるにあたって重要だと思われることは下線部の通り

### 言った方が良く、 した方が良く

- ▶ 気が散らないように、できるだけ静かな場所を見つけて話しましょう
- ▶ プライバシーを尊重し、相手の秘密を守りましょう（やむを得ない場合を除く）
- ▶ 被災者のそばにいきましょう。ただし、年齢や性別、文化によって適切な距離を保つこと
- ▶ 話を聞いていることが相手に伝わるように、うなずいたり、相づちを打つようにしましょう
- ▶ 忍耐強く冷静でいきましょう
- ▶ **もし事実についての情報があるなら伝えてください。知っていること、知らないことを正直に話しましょう。「私には分かりませんが、調べてみます」などというのも良いでしょう**
- ▶ 相手が理解できるような方法で、情報を簡潔に伝えましょう
- ▶ 人びとの気持ちや、話に出たあらゆる損失や重大な出来事（家屋の損失、大切な人の死など）をしっかりと受け止めましょう。「本当に大変でしたね。どんなにか、おつらいことでしょう」など
- ▶ 相手の強さと、これまでどのようにしてつらさを乗り越えてきたのか、ということをしっかりと認めましょう
- ▶ 沈黙を受け入れるようにしましょう

### 言うてはならないこと、 してはならないこと

- ▶ 無理に話をさせてはなりません
- ▶ 相手の話をさえぎったり、急がせてはなりません（たとえば腕時計を見たり、早口でしゃべるなど）
- ▶ 適切であることが確信できない場合には、相手の体に触れてはなりません
- ▶ 被災者がしたことや、しなかったこと、あるいは感じていることについて、価値判断をしてはなりません。「そんなふうに思っははいけませんよ」「助かって良かったじゃないですか」は禁句です
- ▶ 自分が知らないことをごまかして、作り話をしてはなりません
- ▶ 専門的すぎる言葉を使っはなりません
- ▶ 他の被災者から聞いた体験談を話してはなりません
- ▶ あなた自身の悩みを話してはなりません
- ▶ できない約束や、うわべだけの気休めを言っはなりません
- ▶ 相手の問題を全部解決しなければならぬかのように考えたり、行動してはなりません
- ▶ 自分のことは自分でできるという強さや自尊心を弱めてはなりません
- ▶ 誰かについて否定的な言葉で話してはなりません。（「頭がどうかしている」「めちゃくちゃ」などの言葉を使わない）

引用：World Health Organization, War Trauma Foundation and World Vision International (2011).

Psychological first aid: Guide for field workers. WHO: Geneva. (訳：(独) 国立精神・神経医療研究センター、ケア・宮城、公益財団法人プラン・ジャパン (2012) .心理的応急処置（サイコロジカル・ファーストエイド：PFA）フィールド・ガイド.

○困りごとを話してもらったら

・スクリーニング（次ページ）へと進む。併存する他の障害・問題（うつ、知的障害、逆境体験、生活習慣、服薬の問題など）の影響と整理していく

・診断に関連して留意すべきこと

ー成人期に初めて診断を受けること

診断は、アイデンティティの修正、過去の人生の再解釈を求める一大事であることを、支援者は理解しておく必要がある

ー診断を役立てるために

診断を受けることが、本人の自己理解、職場や学校、生活面の問題に対して、どのようなメリット・デメリットを生むかを検討し、一緒に話し合う時間をとることが大切。診断を伝える際の用語の選び方の工夫、説明の仕方（強みを十分に強調する）の工夫で、診断を受けるという経験をポジティブにすることが可能と思われる

診断が満足／不満足なものになる要因

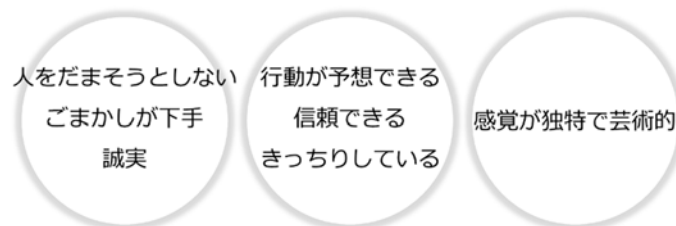
診断が**満足**につながる要因

- ・ 職場、学校などで適切な配慮を求める根拠となる
- ・ 必要な福祉サービスを得られる
- ・ 誤診を防ぎ、適切な治療につながる
- ・ 自己理解を助ける（ポジティブな意味づけ（※）、自分に合った対処方法の見直し）
- ・ エンパワメントにつながる（理解者の存在、仲間の発見）

診断が**不満足**に終わる要因

- ・ 診断に至るまでに会った専門家の数とその助言・情報の不一致
- ・ 専門用語がわかりにくい
- ・ 診断時の情報・助言の質
- ・ 診断後、サポートにつながらない
- ・ 家族の理解・信念が変わりにくい

（※）発達障害の特性のポジティブな意味づけの例



○スクリーニングツール (M-CHAT)

- 対象年齢 16-30カ月
- 23項目 親記入式質問紙 (はい・いいえ)
- 日本語版の特徴 わかりやすい絵の説明あり
- 国内外の大規模研究で、健診場面での有用性が実証済み  
2段階 (質問紙回答→フォローアップ面接) で用いると質問紙のみの使用よりも制度が上がる (偽陽性ケースが減る)  
2段階の場合 陽性的中率 日本 43-46% (事後確率47%)  
米国 54%
- 海外の主要なガイドラインで推奨されている

スクリーニングの結果のフィードバックの方法

保護者への対応(例)

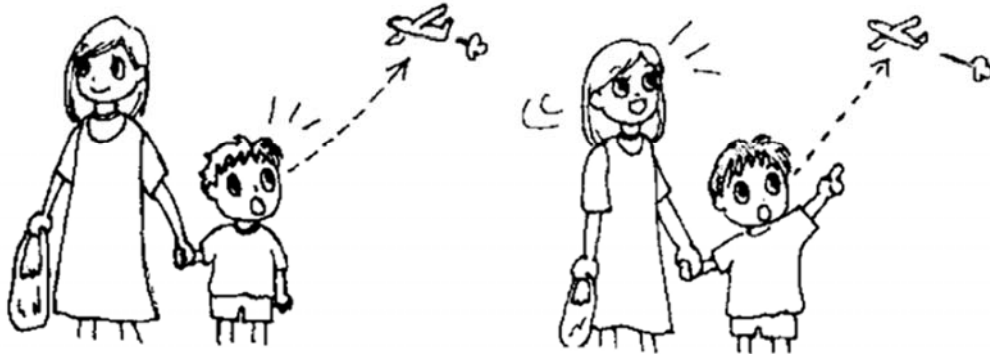
- 「子どもの発達の仕方はひとりひとり、さまざまです」  
個人差を強調
- 「お子さんのコミュニケーションの発達の仕方は、  
平均的なお子さんのとは少し違っているようですね」  
平均との違い(強みと弱みと両面があるので社会的発達に関しては平均と違うということ)を指摘
- 「現在のお子さんの発達状況や特性に一番合った遊びや  
かかわりを工夫しましょう」  
専門的な行動観察や発達検査の意義(強みと弱みを知ることができる、園などでその子にあった対応をもらえる)、そして定期的にあセスメントすることの意義を説明



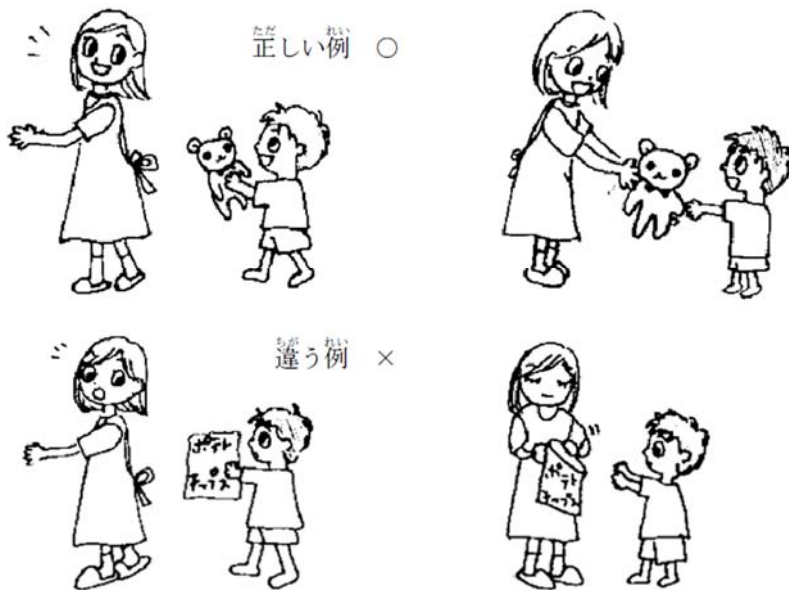


M-CHAT の著作権はDiana Robins, Deborah Fein, Marianne Barton にあります。この日本語訳は、国立精神・神経センター精神保健研究所児童・思春期精神保健部部長の神尾陽子が著作権所有者から正式に使用許可を得たものです。

7. 何かに興味を持った時、指をさして伝えようとしていますか？



9. あなたに見てほしいモノがある時、それを見せに持ってきますか？



17. あなたが見ているモノを、お子さんも一緒に見ますか？



23. いつもと違うことがある時、あなたの顔を見て反応を確かめますか？



M-CHATスコアリングシート

18ヶ月 第1段階スクリーニング M-CHAT 3/23 or 重要1/10(陽性)  
 19~20ヶ月 第2段階スクリーニング M-CHAT 3/23 or 重要2/10(陽性)

重要

1. お子さんをブランコのように揺らしたり、ひざの上で揺ると喜びますか？	<input type="radio"/>
2. 他の子どもに興味がありますか？	<input type="radio"/>
3. 階段など、何かの上で這い上がることが好きですか？	<input type="radio"/>
4. イナイナイバーをすると喜びますか？	<input type="radio"/>
5. 電話の受話器を耳にあててしゃべるまねをしたり、人形やその他のモノを使ってごっこ遊びをしますか？	<input type="radio"/>
6. 他にほしいモノがある時、指をさして要求しますか？	<input type="radio"/>
7. 何か興味を持った時、指をさして伝えようとしていますか？	<input type="radio"/>
8. クルマや積み木などのオモチャを、口に入れたり、さわったり、落としたりする遊びではなく、オモチャに合った遊び方をしますか？	<input type="radio"/>
9. あなたに見てほしいモノがある時、それを見せに持ってきますか？	<input type="radio"/>
10. 1、2秒より長く、あなたの目を見つめますか？	<input type="radio"/>
11. ある種の音に、とくに過敏に反応して不機嫌になりますか？(耳をふさぐなど)	<input type="radio"/>
12. あなたがお子さんの顔をみたり、笑いかけると、笑顔を返してきますか？	<input type="radio"/>
13. あなたのすることをまねしますか？(たとえば、口をとがらせてみせると、顔まねをしようとしますか？)	<input type="radio"/>
14. あなたが名前を呼ぶと、反応しますか？	<input type="radio"/>
15. あなたが部屋の中の離れたところにあるオモチャを指でさすと、お子さんはその方向を見ますか？	<input type="radio"/>
16. お子さんは歩きますか？	<input type="radio"/>
17. あなたが見ているモノを、お子さんも一緒に見ますか？	<input type="radio"/>
18. 顔の近くで指をひらひら動かすなどの変わった癖がありますか？	<input type="radio"/>
19. あなたの注意を、自分の方にひこうとしますか？	<input type="radio"/>
20. お子さんの耳が聞こえないのではないかと心配されたことがありますか？	<input type="radio"/>
21. 言われたことばをわかっていますか？	<input type="radio"/>
22. 何もない宙をじーっと見つめたり、目的なくひたすらうろろろすることがありますか？	<input type="radio"/>
23. いつもと違うことがある時、あなたの顔を見て反応を確かめますか？	<input type="radio"/>

/23 /10

陽性・陰性 陽性・陰性

3/23以上 1 or 2/10以上  
 陽性 陽性